

平成20年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会  
第61回全国高等学校バスケットボール選手権大会

彩夏到来 08 埼玉総体



平成20年7月30日(水) 二回戦

Cコート 第4試合 深谷市民体育館

チームA		31 - 34 28 - 10 25 - 25 38 - 22		チームB
盛岡市立	122		91	東海大学付属第三
岩手				長野

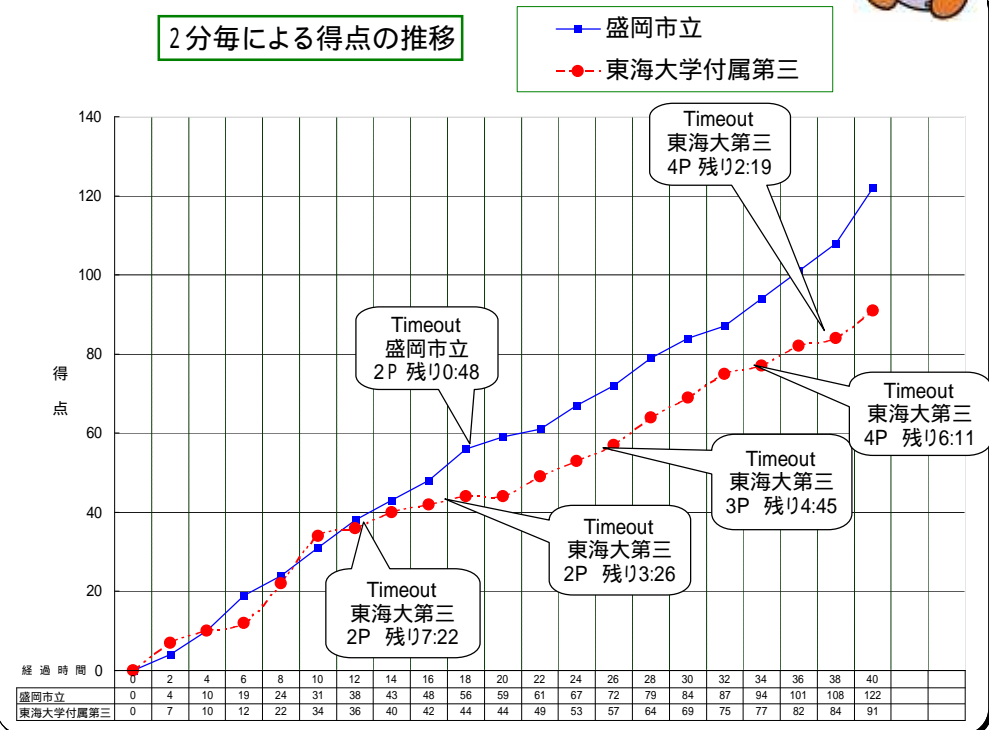
盛岡市立

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	鈴木 優也	X	19	1	4	6	11	4	6	2	2	3	6	2	3	0	31
5	高橋 且磨	X	28	0	0	12	19	4	5	1	4	18	3	2	3	2	39
6	笹崎 航大	/	2	0	0	0	2	2	2	0	1	1	0	1	1	0	3
7	佐藤 駿	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
8	大森 怜	/	10	3	7	0	2	1	2	2	1	0	3	1	1	1	16
9	佐々木 恭	X	10	0	1	3	6	4	6	4	4	5	0	1	1	0	31
10	田中 館 洸	X	30	6	9	5	6	2	4	2	1	2	1	2	2	0	35
11	早川 信太郎	X	3	1	3	0	1	0	0	4	0	2	4	3	4	1	28
12	田上 翔	/	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
13	石井 雄大	/	8	2	2	0	0	2	2	0	1	1	0	0	0	0	1
14	晴山 ケビン	/	4	0	0	2	4	0	1	4	0	2	0	0	0	1	8
15	似鳥 晃太	/	6	1	4	1	1	1	1	0	0	1	3	0	3	0	6
コーチ	室岡 茂 彰									0	2	7					
出場: ×は先発、/は出場			122	14	30	30	53	20	29	19	16	42	20	12	19	5	200
確率				46.7%		56.6%		69.0%			計	58					

東海大学付属第三

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	杉山 捷	X	10	2	5	1	10	2	3	3	1	4	3	0	2	0	35
5	両角 裕貴	/	4	0	0	2	4	0	0	1	1	0	2	3	1	0	12
6	名取 駿	/	7	1	3	2	3	0	0	1	1	1	0	0	0	1	2
7	福澤 陽太	X	30	1	2	11	17	5	8	2	0	0	2	8	7	0	36
8	太田 純	/	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	5
9	小林 雄輝	/	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
10	ハリス キム	X	16	1	1	5	11	3	5	4	5	6	2	0	4	3	30
11	伊藤 拓哉	/	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	2
12	伊藤 弘幸	/	2	0	0	1	2	0	1	0	2	2	0	1	0	0	2
13	瀨 歩 夢	X	7	0	1	3	7	1	1	4	0	1	2	1	1	0	34
14	岩垂 佑貴	X	13	0	0	6	14	1	3	4	3	4	2	2	2	1	34
15	飯島 理貴	/	2	0	1	1	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	6
コーチ	入野 貴 幸									0	5	8					
出場: ×は先発、/は出場			91	5	14	32	73	12	21	23	19	26	15	15	19	5	200
確率				35.7%		43.8%		57.1%			計	45					

2分毎による得点の推移



戦評

粘り強いマンツーマンディフェンスを軸に初戦を勝ち上がったチーム同士の戦いとなった。  
第1P 両チームハーフコートマンツーマンディフェンス。立ち上がりからお互い激しいランジションゲームをしかけ、東海大第三は#7福澤のジャンプシュート#10ザックのインサイド、盛岡市立は#5高橋のポストプレイ#10田中館の3Pなどで得点を重ね、激しい点の取り合いとなった。  
第2P ディフェンスのプレッシャーを強めた盛岡市立に対して東海大第三の細かいミス、ターンオーバーが目立ちはじめ、その機に速攻を絡めた盛岡市立が徐々にペースをつかみ#10田中館の連続3Pもあり点差を一気に15点に広げる。  
第3P 流れを引き戻したい東海大第三は立ち上がりからフルコートマンツーマンプレスで臨む。5分過ぎには、1-2-1-1ゾーンプレスから3-2のゾーンにスイッチ。しかし、盛岡市立は、慌てることなく#5高橋、#9佐々木のゴール下につなぎ確実に得点を重ね、#4杉山・#7福澤の3Pで追い上げをはかる東海大第三にすきを見せない。  
第4P チェンジングディフェンスをフルコートで展開する東海大第三に対して盛岡市立は#8大森の連続3P、#4鈴木のジャンプシュートで得点し、東海大第三の追撃も及ばなかった。1ゲームを通して、東海大第三のポイントゲッターに対する盛岡市立の激しいディフェンスの徹底が勝敗の分かれ目となった。

主審	稲葉 威	副審	原田 拓朗	戦評	長原 康 (埼玉県高体連)
----	------	----	-------	----	---------------